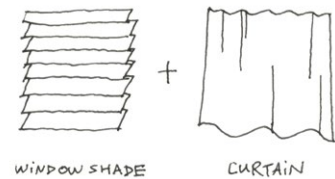


nendoの佐藤オオキさん、 「ウェーブ」はどうやって生まれたのですか？

日本を代表するデザイナーのひとり、佐藤オオキさん。
さまざまな分野のデザインに携わる佐藤さんが生み出したのは、
「空間に柔らかさを与える」まったく新しいブラインドでした。その誕生の背景に迫ります。



現在の「ウェーブ」の原型が生まれた、博報堂クリエイティブ・ヴォックスのオフィスデザイン(2006)。大きなテラスに面した窓に、スラットの一枚一枚が異なる波形を描く真っ白なブラインドを吊しました。ブラインドの機能性とカーテンのソフトな印象を併せ持つ存在が、空間全体に柔らかさを加えています。上は佐藤さんによるイメージスケッチ。 Photo: Daici Ano

※写真は nendo と製作した特別仕様です。ホワイト色は販売していません。

nendo's works



「SHISEIDO THE STORE」(2018)。資生堂発祥の地・銀座に1975年から立つ旗艦店の全面リニューアルプロジェクト。インテリアを「化粧」し世界観を表現。 Photo: Takumi Ota



ロッテのプレスケアガム「ACUO」のブランディング(2006)。文字要素のみの構成で「味」を可視化したデザイン。GOOD DESIGN AWARD 2007受賞。 Photo: Masayuki Hayashi



海外での事例も多数。写真はタイのバンコク市内にある大型商業施設「Siam Discovery」の全6階の内装と外装を含む、全面リニューアル計画(2016)。 Photo: Takumi Ota

nendo

佐藤オオキ Oki Sato

1977年カナダ生まれ。2002年デザインオフィス nendo 設立。建築、インテリア、プロダクト、グラフィックまで幅広くデザインを手がける。Newsweek 誌「世界が尊敬する日本人 100 人」(2006 年)、Elle Deco International Design Award デザイナーオブザイヤー (2012 年) 受賞。作品はニューヨーク近代美術館 (米)、ピクトリア&アルバート博物館 (英) など世界の主要な美術館に収蔵されている。



カーテンのようなブラインドをつくりたかった

ありそうでなかったユニークなデザインのブラインド「ウエーブ」ですが、どのようにしてこの形状が生まれたのでしょうか。

佐藤オオキさん (以下佐藤) : まずブラインドの開発からスタートしたのではなく、あるオフィスのデザインのプロジェクトが最初であり、そこで使用するものとしてブラインドを考えました。大きなテラスに面した気持ちの良い空間だったので、その気持ちよさをできる限り生かすべくシンプルに仕上げたかったんです。ただ、ブラインドは調光をはじめとした機能はとて優れていますが、空間に「かたさ」が出てしまう恐れがありました。そこで、ブラインドのブラインド一枚一枚をそれぞれ異なる波状にカットし、カーテンのように柔らかい立体感を持つ「ブラインドとカーテンの中間」のような存在にすることで、空間全体に柔らかさを与えられない

かと考えたんです。そうして新しくデザインしたブラインドを TOSO さんに相談して、オーダーの形でつくってもらったというのが経緯です。

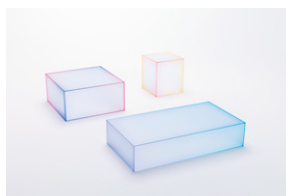
まず空間ありきで生まれたデザインだったのですね。実際に形になるまでは、TOSO の担当者との間で何度もやり取りがあったと聞いていますが。

佐藤 : 最初にこちらで「こういうデザインのブラインドをつくりたい」と模型をつくって見てもらったのですが、その段階では実際に昇降させたりチルト (スラットの角度を変える) させたりするのが難しいと TOSO の開発の方から言われまして。TOSO での試作を経て波のピッチや数などいくつか条件を出してもらい、再度設計を行いました。お話した通りオフィスのデザインがまずあって工期が決まっていたた

め、それに向けて結構タイトなスケジュールでやり取りを行いました。

その後 TOSO で製品化に向けた動きがあり、現在の「ウエーブ」の形になったと。佐藤さんは製品化にも監修として関わられたと聞いています。ウエーブは特にどのような空間で使ってほしいですか？

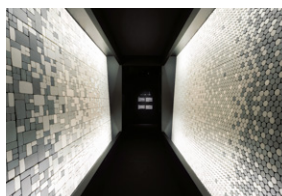
佐藤 : 空間を「遮断する」ものではなく、空間と空間を緩やかに「繋げる」ものとして使ってもらえると嬉しいです。ただ、選択肢がどんどん増えている時代ですから、作り手から「こう使ってほしい、こうすれば効果的」と絞り込まずに余白を残すことが大事だと考えています。僕にとって、デザインやものづくりの中心は常に人。いろいろな分野から多角的にその人の人生を豊かにするお手伝いができればいいと思っています。



5 枚のフロストガラスを使った箱のような形のテーブル「soft」(2015)。ガラス同士の繋ぎ目の断面やガラス平面に色をプリントし、柔らかな印象に。 Photo: Kenichi Sonehara



「天理駅前広場 CoFuFun」(2017)。奈良県の JR・近鉄天理駅の駅前広場整備計画。天理市内に多数点在する古墳をアイコンとし、円形の遊具やカフェを設計。 Photo: Takumi Ota



2018 年のミラノサローネ期間中に開催された個展「nendo : forms of movement」。日本企業の先端素材や加工技術を利用した 10 コレクションを展示。 Photo: Takumi Ota



ルイ・ヴィトンのためにデザインした照明器具「surface」(2013)。一枚の革を丸めて持ち運び、使用時には LED 光源にマグネットで固定する仕組み。 Photo: Akihiro Yoshida